

エマージェンシーアクションプラン (Emergency Action Plan :EAP) 作成ガイドライン

日本AED財団
スポーツ部会

目次

- 第1章 Emergency Action Planとは
- 第2章 EAP作成に向けてのポイント
- 第3章 迅速なAEDの使用
- 第4章 EAPに必要な役割
- 第5章 必要な機材準備
- 第6章 EAP作成時の確認事項・関連情報
- 第7章 EAP作成要領
- 第8章 怪我人発生時対応要領
- 第9章 個人情報保護・管理方法
- 第10章 メディカルコントロール

第1章 Emergency Action Planとは

Emergency Action Planとは (緊急時対応計画： Emergency Action Plan、以下EAP)

スポーツ施設において、スポーツを行う人すべてに安全で安心な環境を提供しベストなパフォーマンスを出していただくため、施設やスポーツ団体側が事故の際「事前に対応計画を立てておくこと」をEAPといいます。EAPは、医療関係者（医師・救急救命士・トレーナー）が常駐していない場合でも、救護体制を構築できるように事前に作成し、有事の際に、最善の処置、対応を行えることを目的とします。

EAPにおける目標

各スポーツ施設やスポーツ団体がEAPの必要性を理解し、各スポーツ現場におけるEAPを作成し、施設使用者・団体関係者すべてに掲示や周知の方法で情報共有することで、安心安全なスポーツ環境を提供し、事故の際に最善の結果を得ることを本ガイドラインの目標としています。

第2章 EAP作成に向けてのポイント

- 1) 救護上予期される外傷・障害（スポーツ種目による特性を考慮）
- 2) 救護対応するために必要な関連情報や使用機材の準備
- 3) 救護対応するための必要な処置の実施要領
- 4) 最も近いAED配置場所の確認
- 5) 救急車の進入経路やけが人の搬送方法と経路の確認
- 6) 受診すべき怪我や最寄りの病院情報

第3章 迅速なAEDの使用

スポーツ救護の目標は、倒れてから**3分以内にAEDによる除細動**（電気ショック）を行うことです。そのためにはAEDを**2分以内に取り寄せられる体制**を構築する必要があります（頭部外傷・熱中症にも注意）。

<迅速なAEDの使用をするための確認ポイント>

- 最も近いAED**を確認する
- AED設置場所表示シール**や**AED誘導標識**を活用し全体に周知する。
- 土日・夜間でも取り出しが可能な状態か確認する。
- 事故時に適切かつ確実に使用するため、日頃から**定期的にトレーニング及び点検**を行う

AED設置場所表示シールやAED誘導標識



AEDが設置されている場所に
わかりやすく表示しましょう



AEDが設置されている場所に
誘導できるように50m～100m間隔
で設置しましょう。

（日本AED財団が推奨するJIS規格のAEDマーク）

AEDの設置場所3つのポイント

Point 1 | 2分以内に届けられる環境に

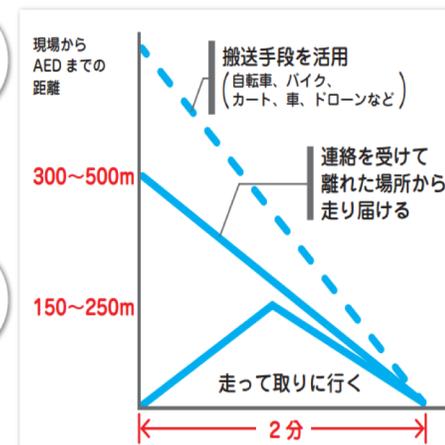
3分以内に電気ショックを行うには2分以内にAEDを届けられる環境に（電極貼付と解析充電で1分必要）

Point 2 | 誰がどう届けるか事前に計画

右図を参考にスポーツ現場のどこに何m間隔で合計何台のAEDを設置し、それを誰がどう届けるか事前に計画準備

Point 3 | 選手・観客に周知する案内を

AEDの設置位置を選手・観客に周知する位置案内表示を用意する



◀位置案内表示の一例

出典：日本循環器学会/日本AED財団 提言「スポーツ現場における心臓突然死をゼロに」

第4章 EAPに必要な役割（兼務も可）

●大会責任者

スポーツ施設・大会および練習時におけるすべての責任者。

●119番通報・救急隊案内者

119番通報時の手順に基づき、迅速で確実な救急要請を行う。
救急隊到着時には救急隊の到着場所まで移動し、案内を行う。

●救護資機材担当者

資機材の事前準備や、使用した際の物品の補充、管理等を行う。

●AED担当者

AEDを搬送し、必要な処置の対応をする。

●応急手当担当者・安全管理担当者

大会および練習時に発生した傷病者に対して、応急手当の実施と救護活動現場の安全管理を行う。

●関係機関連絡者・搬送付き添い者

大会および練習時に起こった事案に対し、関係各所へ連絡を行う。

●記録者

救護案件の活動記録を作成。医療機関を受診、または救急車による搬送がある際に付き添う。

第5章 必要な器材準備

① ファーストエイド（FA）基本救護バック内 一覧（例）

観察セット

- 感染予防セット（手袋S・M）
- 自動血圧計
- SpO2モニター、体温計
- AED

外傷セット

- ガーゼ ○包帯 ○三角巾
- 絆創膏 ○紙テープ ○ハサミ
- シーネ ○ネックカラー
- サージカルテープ ○経口補水（OS-1）

搬送用器材

- スクープストレッチャー（バックボード）または布担架

② 追加救護資機材（各種目別例）

屋外競技（ラグビー、アメフト、野球、サッカー、陸上など）

- 直腸温計や水の入った浴槽やシャワーなど冷却資機材
- 簡易テント

屋内競技（水泳、シンクロ、水球など）

- タオル
- 簡易テントなど

第6章 EAP作成時の確認事項・関連情報

EAPは、関係者だけが理解していれば良いものではない。スポーツ施設や団体・大会運営側など、EAPの情報を共有することで、事故の際にスムーズな対応・救護活動の手助けとなりうる。そのため、救護統括担当者は試合前に審判、チームドクター及び練習施設の関連部署等とEAPを確立し共有しておくことが重要である。

EAP作成に向けた関連情報の確認項目例

- 大会名 ○ 施設名 ○ 施設住所
- 施設（大会）責任者
- 医師・看護師・救急救命士（チーム、他のチーム）
- コーチやアスレチックトレーナー（チーム、他のチーム）
- AEDの設置場所と医務室の位置
- 近隣の医療機関情報
- 救急車搬送経路の確認 など

第6章 EAP作成時の確認事項・関連情報

《前日までに確認する項目》

大会責任者、チームドクター、チームアスレチックトレーナーの数、中止の際の連絡方法について確認する。

《当日の確認事項》

各部所の担当者・大会スタッフ、チームドクター、アスレチックトレーナーなどの救護に関するスタッフへの挨拶と、顔合わせを行う事で顔の見える関係づくりを構築しておく。とくに、試合スケジュールや練習開始前に選手の体調確認は重要である。また関係各機関の電話連絡先を確認して迅速な連絡体制を構築する。

（資機材の確認）

救護資機材担当者は資機材管理一覧を参考に資機材の内容を確認する。資器材確認し不足物品があれば補充を行う。

（大会全体で共有すべき事項）

大会概要、変更の有無、タイムスケジュール、救護体制概要、スタッフ一覧、携帯電話番号、救護スタッフ配置、連絡体制（119番通報係は救急車要請内容）等 確認する

第6章 EAP作成時の確認事項・関連情報

近隣医療機関情報の把握

①携帯電話やスマートフォン、インターネット等で検索する

練習会場や、施設会場に、「近隣の医療機関」と入力すると、医療機関を検索することができます。また、受診希望の科目を追加して入力すると内科、整形外科、脳神経外科の診察可能な医療機関を案内しています。

②医療情報センター(#7119など)を利用する

医療情報センターに症状、あるいは怪我をしている状況を伝えると、今いる場所から近い医療機関を案内してくれます。

医療機関を探す際の注意点

受診可能か確認の電話連絡を行ってから、受診する。

医療機関によって、曜日、診察時間が異なる場合があります。

病院に行ってみたが、やってなかった。ということが無いよう確認する。

第6章 EAP作成時の確認事項・関連情報

救急車搬入・搬送経路の確認

物理的に、救急車が入らない場合を除いて基本的には傷病者の直近への駐車が原則、搬入及び搬送に時間を要することがあります。

- 駐車車両があり、救急車が入らない。
- 開けられる門が閉まっている。
- 移動可能な荷物や積載物があって通過できない。など

搬送障害となるものが、救急現場では少なくありません。可能な範囲で救急車が搬入して、そのままUターンせず出られる経路を確保するなど、救急隊案内係を配置することにより、搬入及び搬送時間の短縮が可能となります。

第6章 救護体制の確認・関連情報



所在地

〇〇市〇丁目〇番地 TEL:03-1111-1111

近隣医療機関連絡先

関係者連絡先

- ・監督:
- ・トレーナー:
- ・コーチ:
- ・警備室:

第7章 EAP作成要領

- 1. 緊急時行動計画-EAPテンプレートを作成し掲示します。
- 2. 施設名、スポーツ名、健康管理室（電話番号）を書き込みます。
- 3. 責任者連絡先、各種連絡先の情報をわかる範囲で書き込みます。
- 4. 主な救護資機材を書き込みます。テンプレート記載内容は一例です。
- 5. 救急車要請時の案内図、線で囲まれた四角の中に試合会場もしくは、練習場所の地図を描きます。
- 6. 地図を描き終わったら、①救急車経路&停車位置、②救急隊搬送経路、③AEDの設置場所を書き込みます。
- 7. 救急車の停車位置から、試合場や練習施設までの導線を記入します。
- 8. 平素よりの診療情報・#7119、インターネット等を使用して検索し、練習場所や試合会場に近い医療機関を記入します。
- 9. すべての記載が終了したら、入り口などの見えやすい場所にラミネート等を使用して掲示します

第7章 EAP作成要領

各スポーツ施設・団体の緊急時の対応手順を記載します。

各スポーツ施設・団体で用意できている機材を記入します

日本AED財団 スポーツ施設やクラブチームにおける 緊急時行動計画 (EAP) Ver1.6																				
スポーツクラブ名 () 緊急時施設内連絡先TEL - - 緊急時以外：救護室TEL - - ()																				
傷病者対応フローチャート	対応に必要な資機材 一覧表	救護体制に関する基本情報																		
	<p>ファーストアイド(FA)応急手当キット一覧</p> <table border="0"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 感染予防キット(手袋S・M)</td> <td><input type="checkbox"/> 絆創膏</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> ガーゼ</td> <td><input type="checkbox"/> ハサミ</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 三角巾</td> <td><input type="checkbox"/> ネックカラー</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 包帯</td> <td><input type="checkbox"/> シーネ</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 固定テープ</td> <td><input type="checkbox"/> スクーブストレッチャー</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> AED</td> <td><input type="checkbox"/> バックボード</td> </tr> <tr> <td></td> <td><input type="checkbox"/> ネックカラー</td> </tr> <tr> <td></td> <td><input type="checkbox"/> アイシングプール</td> </tr> <tr> <td></td> <td><input type="checkbox"/> 車いす</td> </tr> </table> <p>①AEDや搬送機材設置場所 ②機材保管場所を記入</p>	<input type="checkbox"/> 感染予防キット(手袋S・M)	<input type="checkbox"/> 絆創膏	<input type="checkbox"/> ガーゼ	<input type="checkbox"/> ハサミ	<input type="checkbox"/> 三角巾	<input type="checkbox"/> ネックカラー	<input type="checkbox"/> 包帯	<input type="checkbox"/> シーネ	<input type="checkbox"/> 固定テープ	<input type="checkbox"/> スクーブストレッチャー	<input type="checkbox"/> AED	<input type="checkbox"/> バックボード		<input type="checkbox"/> ネックカラー		<input type="checkbox"/> アイシングプール		<input type="checkbox"/> 車いす	<p>(コーチ・指導者・非常勤・ボランティア等)</p> <p>役職</p> <p>(氏名:) (連絡先:)</p> <p>(氏名:) (連絡先:)</p> <p>(氏名:) (連絡先:)</p> <p>近隣の医療機関情報</p> <p>病 院 名</p> <p>(科目:) (連絡先:)</p> <p>(科目:) (連絡先:)</p> <p>(科目:) (連絡先:)</p> <p>(科目:) (連絡先:)</p>
<input type="checkbox"/> 感染予防キット(手袋S・M)	<input type="checkbox"/> 絆創膏																			
<input type="checkbox"/> ガーゼ	<input type="checkbox"/> ハサミ																			
<input type="checkbox"/> 三角巾	<input type="checkbox"/> ネックカラー																			
<input type="checkbox"/> 包帯	<input type="checkbox"/> シーネ																			
<input type="checkbox"/> 固定テープ	<input type="checkbox"/> スクーブストレッチャー																			
<input type="checkbox"/> AED	<input type="checkbox"/> バックボード																			
	<input type="checkbox"/> ネックカラー																			
	<input type="checkbox"/> アイシングプール																			
	<input type="checkbox"/> 車いす																			
<p>第1優先連絡先</p> <p>氏 名</p> <p>連絡先</p>		<p>競技会場、救急車導入、搬送に必要な情報</p> <p>案内図 ①救急車導入経路 ②停車位置 ③傷病者搬送経路の導線を記入</p>																		

各スポーツ施設・団体の緊急時連絡先を記入します(個人情報に配慮する)

各スポーツ施設・団体の近くの病院・医院などの情報連絡先を記入します(個人情報に配慮する)

各スポーツ施設・団体の緊急時の搬送経路・救急車の誘導口などを記載します

各スポーツ施設・団体の責任者などを記載します(個人情報に配慮する)

各スポーツ施設・団体のAEDの設置位置や資機材の保管場所などを記載します

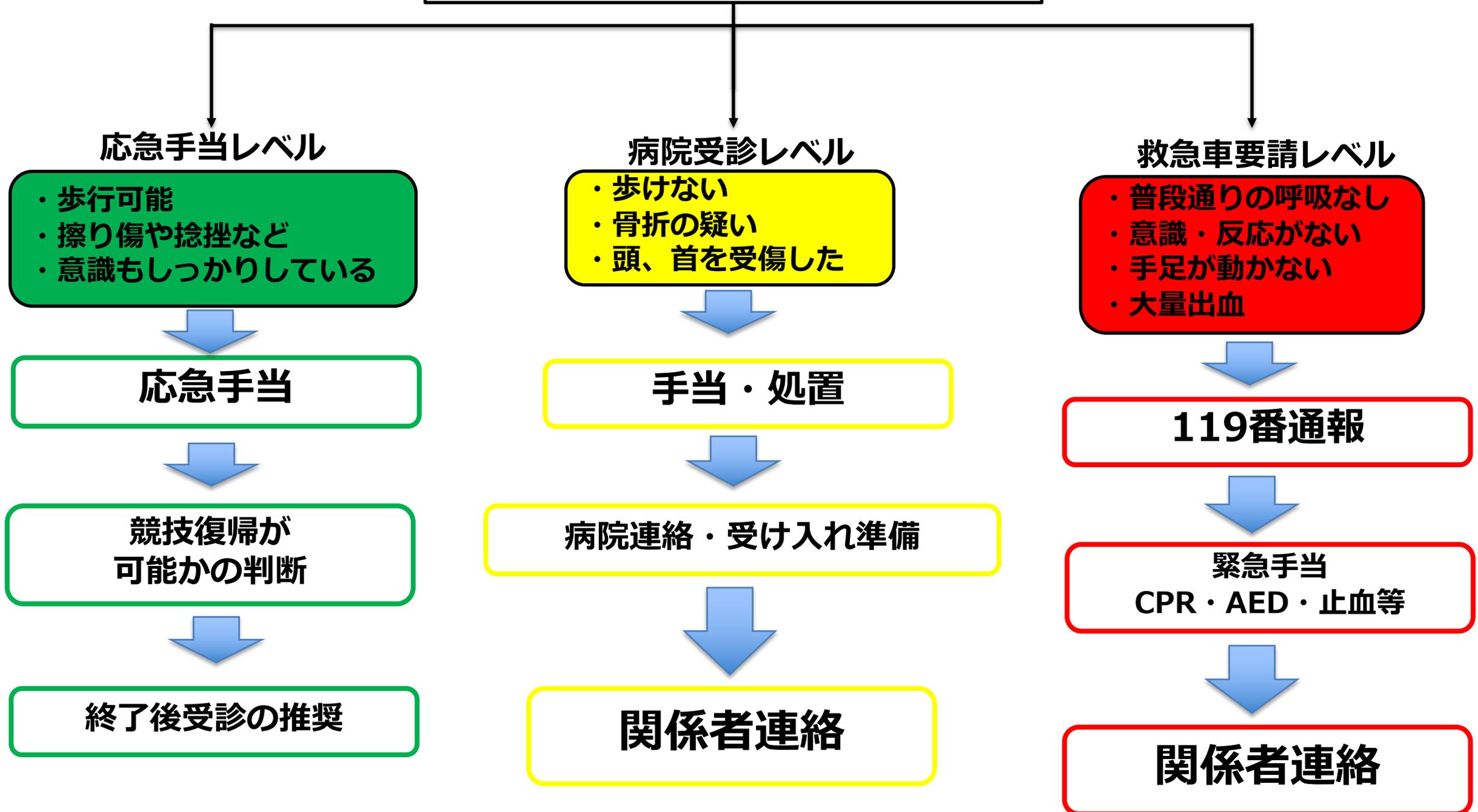
第8章 怪我人発生時対応要領

- **意識はない場合** ⇒ ない（もしくは分からない）場合、119番し、AEDを取りに行く、周囲に応援を要請する。呼吸の確認をする。
- **心肺停止と判断される場合** 呼吸の確認 ⇒ 普段通りの呼吸がないか分からない場合は胸骨圧迫を行う。CPRは救急隊到着まで続ける
- **頭部外傷の場合は** ⇒ 可能性がある ⇒ 脳震とうの症状（頭部外傷の可能性）がある場合、活動を中止し、保護者へ連絡！一人で帰宅させない。行動に異変があれば、すぐに119番を行う。
- **熱中症の場合は** ⇒ 体温がたかい、意識がもうろうとしている場合
⇒ 熱中症の可能性があるのですぐに冷却を開始！水道水散布によるシャワーや氷水に全身を浸漬する（氷水浴法）。症状が回復しければ、119番を行う。救急車が来るまでの間に水分・塩分の補給、とくに経口補水液の飲水ができれば同時に行う。* 冷却用の氷など事前に確認。
- **大量出血の場合は** ⇒ 持続する大量出血がある場合、すぐに止血を行う（直接圧迫止血） * 清潔なガーゼや感染予防手袋も事前に確認

第8章 怪我人発生時対応要領

傷病者発生時対応フロー例

怪我人の状態確認



第9章 個人情報保護・管理方法

EAPには、さまざまな情報が書き込まれておりリスク管理が必要 個人情報について

個人情報とは、生存する個人に関する情報であつて、氏名や生年月日等により特定の個人を識別することができるものをいいます。個人情報には、他の情報と容易に照合することができ、それにより特定の個人を識別することができることとなるものも含まれます。

個人情報保護法について

個人情報の保護に関する法律(以下、個人情報保護法)は、個人情報をきちんと大切に扱ってもらった上で、有効に活用できるよう共通のルールを定めた法律です。(平成29年個人情報保護法ハンドブックより一部抜粋)

管理方法について

個人情報の取扱いの基本的なルールを決めます。

- 紙で管理している場合は、鍵のかかる引き出しに保管する。
- 2つ折りファイル等を使用し、個人情報が外から見えないようにする。
- パソコン等で管理している場合は、ファイルにパスワードを設定する。
- パソコンにセキュリティ対策ソフトウェアを導入する。

第10章 メディカルコントロールの必要性

EAP作成ガイドラインにおける、メディカルコントロールの役割は、スポーツ施設内でのスポーツ活動時における事故等について、医師の監修をうけた救護対応マニュアルの準備、実施さらに、対応のちに関係者が集まり、時系列対応などが正しかったか、事後検証を行い、改善策の策定（PDCAの実施）をすることです。

参考

救急現場から医療機関へ搬送されるまでの間において、救急救命士等に医行為の実施が委ねられる場合、医行為を医師が指示または指導・助言並びに検証してそれらの医行為の質を保証することを意味する。

厚生省：病院前救護体制のあり方に関する検討会報告書より